

9月のテーマは、「研究活動」ですっ！

今回は、9/6に学会発表をする、石川STと岡山PTに
インタビューしました♪

東大阪病院リハ課では、臨床の成果を院内外にて発表しています。平成23年度は5件、24・25年度はともに9件と発表にチャレンジする療法士も増えています！研究機関ではないので、仕事としては臨床活動がメインとなり、発表準備はフラスアルファで行っていますが、臨床で得たことを発表することで、他施設の療法士からフィードバックをもらえ、さらに質の高い治療提供ができるのではと考え取り組んでいます。

Q1 今回、何の学会で発表のですか？

石川ST：9月6～7日で行われた日本摂食嚥下リハビリテーション学会で口述発表をしました。

岡山PT：9月6日に行われた日本臨床運動療法学会でポスター発表をしました。

Q2 どうして発表しようと思ったのですか？

石川ST：演題名が「絶食から3食経口に至った廃用症候群患者の諸因子に関する検討」ということで、当院STには絶食状態で嚥下評価の指示が出ることも多く、その患者様は単に嚥下状態の良し悪しで3食食事を摂れるようになっているかということ、そういうわけではないな、という印象が強く、嚥下以外で、食べられるようになるための要因を探ってみようと思ったのが理由です。

岡山PT：今回、「内反尖足に対して、足袋の有効性を示した一症例」という演題名で発表を行いました。担当した方は足につける装具を拒否する訴えがありました。そこで装具に変わるものがないか検討したところ、前例の少ない足袋を使用することで屋内用装具の代用として使用が可能になりました。介入中に行った工夫を何かしらの形に残したいと思ったのが発表に至った理由です。

Q3 発表してよかったと思うことは何ですか？

石川ST：今回、発表するために、統計の勉強をたくさんしたのですが、そのおかげで学会の中で他の演者の発表や講演の内容が、今までよりもわかりやすく聞いたのがよかったです。また、日頃の臨床の頑張りを発表という形で残すことで、より根拠を持って仕事ができたり、モチベーションも上がってくるのが良いかと思います。

岡山PT：発表することで、改めて患者様への関わりを振り返ることができました。そこで新たに良かった点・反省する点に気が付いたので、大きな学びになりました！また、私は今回初めての発表で、つらいことも多かったですが、多くの方が協力してくださり、ポスター作成からプレゼンテーションの方法まで幅広く教えていただけたので、大変勉強になりました！

Q4 発表で大変だったことはどんなことですか？

石川ST：発表をまとめるのは、簡単ではなかったです。統計の知識を増やしたり、考察を何回も考え直したり、発表前後までかかってしまいましたから。

岡山PT：プレゼンテーションに苦戦しました。人前で話すことが苦手で、台本があっても言い間違えてばかりでした。また、発表の3日前から緊張で腹痛が治らず、それはそれは大変でした。。。発表終わった直後にすっきり治りました！

Q5 発表を考えている療法士にひとこと！

石川ST：この仕事をしていると、必ず「自分もやってみたいな」と思うことが少しでもあるはずですが、でも、発表の仕方がわからない、とか、統計を知らない、とかの理由であきらめてしまいがちになると思います。自分もそうなので、自分も、統計の知識がほとんどない状況から今回の発表をまとめることができました。人一倍苦勞はしますが、勉強したり、知っている人の力を頼ったりすることで、何もわからない所からまとめることは絶対にできます。自分自身で自分の可能性をつぶさずに、まずはやりたい気持ちを大事にしてほしいと思います！

岡山PT：石川さん良いこと言いますね～。感動しました。私も石川さんの姿に魅かれて発表することになりましたからね。発表は経験年数の浅いうちにされた方が、みなさんに指導をいただきやすいと思います。また、小さな規模の発表などから行うのがオススメですかね。発表を終えたときの達成感はすごく大きいので、迷ったらぜひ行ってほしいです。

～院内での予演会の様子～



次回リハビリブログは、「リハ課の研修制度について」特集します。楽しみに！